

ボランティア事業報告

「大学生による学校参加ボランティア・プロジェクト」の実践報告

水原 克敏

渡利 夏子

本報告は、当年報の前号¹で紹介した「大学生による学校参加ボランティア・プロジェクト」（以下、「学校ボランティア」）の取り組みについて、平成16年度の取り組みを中心に紹介するものである。

1. 「学校ボランティア」の概要

「学校ボランティア」は、その教育的意義が認められ、平成16年度から東北大学教育学研究科の支援を受ける組織となった。その結果、若干の物品と事務費等が支給され、活動は従来にも増して活発になり、その基礎を整えることができた。菊池科長の立ち会いの下、平成16年2月20日には、仙台市教育委員会と、そして同年3月30日には宮城県教育委員会とボランティア活動に関する正式の提携を結んだ。

「学校ボランティア」の目的については前号でも紹介したが、その後、事務局スタッフらによって次の2点が確定された。

- 大学生によって地域の教育活動がより豊かになる事
- そこでの活動を通して学生が社会の中の一員として成長していく事

これは学校と大学生の双方の向上を目指したものであり、特に学生の人間的成長を目的としたところに、「学校ボランティア」の特徴があるといえる。前号でも述べたように、このような取り組みを始めたきっかけは、「総合科目」での「自分」ゼミを行う中で、学生の「自分探し」を達成するためには、実際的な活動を通して自ら学ぶことが効果的であると考えたことである。

登録学生は全学部で128名であり、その学部の内訳は以下の通りである。教育学部生が登録学生の大半を占めているが、その他の学部の参加もある。チラシ配りやホームページによる勧誘の甲斐あって、現在でも登録学生数は増えている。

¹ 水原克敏「大学生による学校参加ボランティア・プロジェクトに関する実践的研究」東北大学教育学研究科 教育ネットワーク研究室『教育ネットワーク 第4号』平成16年3月. pp43-57

(2004年11月現在登録者数)

学部	教育	文学	法学	工学	理学	経済学	農学	歯学	医学	合計
登録人数	64	14	14	14	11	4	3	2	2	128

2. 2004年度の活動実績

ここでは、2004年度に行われたボランティア活動の一部を紹介する。

学校・団体名： 鶴谷小学校	活動日： 9月8～10日								
活動場所： 泉ヶ岳少年自然の家	活動内容： 野外活動の補助								
参加者人数	<table border="1"> <tr> <td>日</td> <td>9/8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </table>	日	9/8	9	10	人数	2	2	2
	日	9/8	9	10					
人数	2	2	2						
泊り込みで参加してくれました。									

学校・団体名： 県教委主催 地域学習支援センター	活動日： 7月28～30日								
活動場所： 佐沼高校	活動内容： 小・中学生の自習サポート								
参加者人数	<table border="1"> <tr> <td>日</td> <td>7/28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>	日	7/28	29	30	人数	3	3	3
	日	7/28	29	30					
人数	3	3	3						
3名の方が泊り込みで参加してくれました。									



「大学生による学校参加ボランティア・プロジェクト」の実践報告

学校・団体名： 県教委主催 地域学習支援センター	活動日： 8月 9～13日、17日～20日																				
活動場所： 塩釜高校	活動内容： 小・中学生の自習サポート																				
参加者人数	<table border="1"> <tr> <td>日</td> <td>8/9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>8/17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>	日	8/9	10	11	12	13	8/17	18	19	20	人数	3	2	3	3	1	0	0	1	1
	日	8/9	10	11	12	13	8/17	18	19	20											
人数	3	2	3	3	1	0	0	1	1												
この他に宮教大の学生も参加。																					

学校・団体名： 県教委主催 地域学習支援センター	活動日： 7月 26～30日、8月 2～6日、 9月 11日、10月 16,30日																						
活動場所： 柴田高校	活動内容： 小・中学生の自習サポート																						
参加者人数	<table border="1"> <tr> <td>日</td> <td>7/26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>8/2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </table>	日	7/26	27	28	29	30	8/2	3	4	5	6	人数	3	3	3	3	3	4	3	2	2	3
	日	7/26	27	28	29	30	8/2	3	4	5	6												
	人数	3	3	3	3	3	4	3	2	2	3												
	<table border="1"> <tr> <td>日</td> <td>9/11</td> <td>10/16</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </table>	日	9/11	10/16	30	人数	2	3	1														
日	9/11	10/16	30																				
人数	2	3	1																				
この他に宮教大の学生も参加。																							



学校・団体名： 東二番町小学校	活動日： 長期（4月～）
活動場所： 東二番町小学校	活動内容： 授業補助
参加者人数： 3名	

学校・団体名： 太白区役所・まちづくり推進課	活動日： 7月17日(土)
活動場所： 太白区秋保 二口溪谷	活動内容： 野外活動の補助
参加者人数： 1名	

<p>学校・団体名： NPO法人・地域大学連携機構「学びの森アカデミー」</p>	<p>活動日：7月3日（土）</p>
<p>活動場所： 東北大学大学院・農学研究科附属農場</p>	<p>活動内容：野外活動の補助</p>
<p>参加者人数：3名</p>	
	

<p>学校・団体名：学びの森アカデミー</p>	<p>活動日：9月18日（土）</p>
<p>活動場所：東北大学大学院・農学研究科附属 複合生態フィールド教育研究センター</p>	<p>活動内容：野外活動の補助</p>
<p>参加者人数：2名</p>	
	

学校・団体名 ：学びの森アカデミー	活動日 ：10月13日(水)
活動場所 ：仙台新港付近の沼向遺跡	活動内容 ：野外活動の補助
参加者人数 ：1名	
	
学校・団体名 ：ボランティア文化フェスティバル	活動日 ：11月14日(日)
活動場所 ：メディアテーク7F	活動内容 ：ボランティア発表会のスタッフ
参加人数 ：5名	
	

学校・団体名 ：利府町教育委員会主催 地域学習支援センター	活動日 ：12月23～25日			
活動場所 ：利府町 十符の里プラザ	活動内容 ：小・中学生の自習サポート			
参加者人数	日	12/23	24	25
	人数	2	2	2



3. ボランティア活動の流れ

(1) ボランティア事務局

現在のボランティア事務局は、工学部3年の柳沢祐介、教育学研究科修士1年の八木美保子、同研究科博士課程後期1年の渡利夏子の3名によって運営されている。これから紹介する活動のシステムは彼等によって支えられているといってもよい。彼等の仕事は、学校からの依頼の受付・交渉、学生からの参加登録の受付、130名の登録学生との交流、活動中のトラブルへの対応等である。彼等によって作成された「学校ボランティア」のホームページ (<http://www.sed.tohoku.ac.jp/volunteer/>) によって、ホームページ上で、学校からの依頼内容の確認、ボランティアへの参加申込、ボランティア活動



の報告等を行うことができるようになった。ホームページが作られたことで、前号に課題として述べた「募集」「派遣」「活動」「報告」のシステムは改善され、ほぼ1年間の試行錯誤を経てようやく安定してきている。

(2) 学校からの依頼受付

ボランティアの依頼は、小・中学校と高等学校とで受付の方法が異なる。まず、小学校については次の手順でボランティア活動が行われる。

1. 事務局が依頼を受け付ける

小学校・中学校からの依頼は、仙台市教育委員会を通して事務局に届く。依頼が届き次第、事務局が学校に確認の連絡をし、依頼内容の確認を行う。依頼の内容によっては、依頼を受けなかったり、依頼内容の変更（実施期間を短くする、派遣人数を少なくする等）を行ったりする。

2. 登録学生に参加募集

HPを通して、登録学生に参加を募集する。ホームページ上では、依頼内容が不特定多数の人に見られないよう、パスワード制にしている。

3. 事務局から募集結果を伝える

仙台市教育委員会を通して、募集学生の氏名及び連絡先を伝える。場合によっては、募集人数に達しない事もある。学校には、その旨を依頼を受ける際に伝えてある。

4. ボランティア学生と打ち合わせ

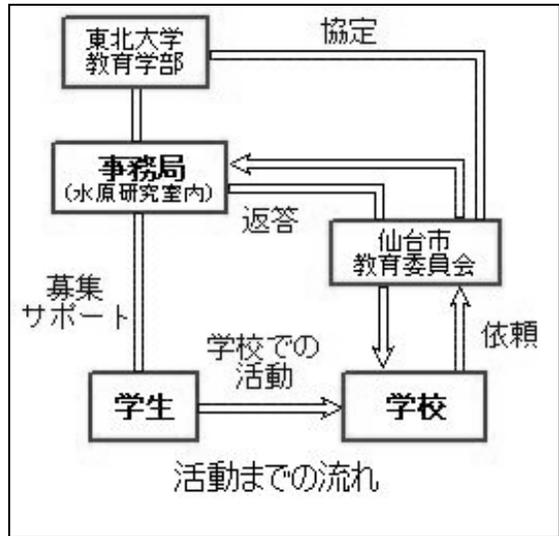
学校が参加を希望する学生と直接連絡を取り、活動内容の詳細や注意事項、交通手段等を確認する。事務局での打ち合わせがある事もある。

5. 活動当日

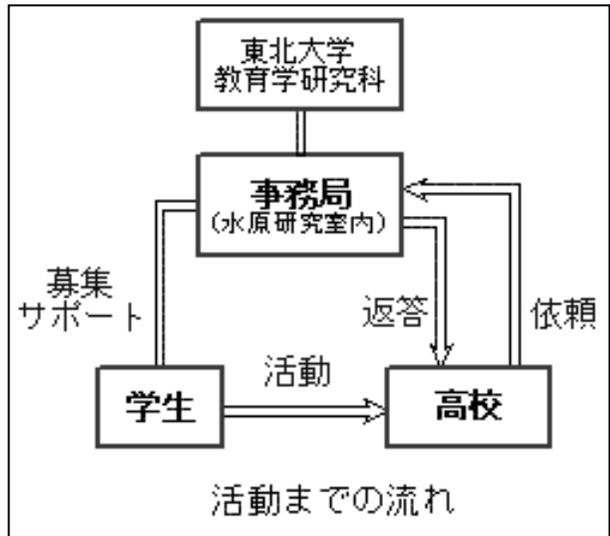
大学生が待ち合わせの時間に来ない場合には、学校側に直接、当該学生と電話にて連絡をとってもらう。事務局がそれを手伝えることもある。

6. 活動後

今後の活動改善のため、当日の様子や、学生ボランティアを利用した感想、評価などをもらうようにしている。現在では、ホームページ上でも書き込めるようになっている。



高等学校やその他の団体からの依頼は、基本的に小・中学校の場合と同じであるが、依頼の受付の方法が異なっている。小・中学校が教育委員会を經由して依頼を行うのに対して、高等学校等は「学校ボランティア」事務局に直接依頼を行う。ボランティア派遣を希望する高等学校は、ホームページから依頼用紙をダウンロードして、必要事項を記入した上で、FAXにて東北大学教育学研究科の水原研究室にある「学校ボランティア」事務局に送る。これまでに、このオンライン登録は利用されていないが、今後有効に活用されるのではないかと考えている。



これまでに、このオンライン登録は利用されていないが、今後有効に活用されるのではないかと考えている。

ボランティアの依頼は学校が始まる4月と、野外活動などが行われる夏季に集中し、それ以外の時期の依頼は少ない。依頼が少ない時期には、事務局がこれまでボランティア活動を行ったことがある学校や教育委員会を訪問し、新規依頼を促す活動を行っている。

(3) 学生の派遣

派遣するにあたって、まず必要なのが学生が「学校ボランティア」に登録することである。登録を希望する学生が、東北大学学校ボランティアのホームページの「新規登録・変更」から登録をし、必要事項を記入し送信すると、事務局から確認のメールが送られてきて登録完了となる。(仙台市教育委員会の「学生サポートスタッフ・人材バンク」には、別途、登録カードを仙台市教育委員会に提出し登録完了となる。それと同時に仙台市市民活動保険の対象となる。)この時に、防犯上、不特定多数に公開することができない、ボランティアの依頼内容を見るためのパスワードが知らされる。依頼内容はホームページ上に記載されるが、新規の依頼が来た際には、事務局から簡単な依頼内容がメールで送られてくるので、それを見てホームページで詳細を知ることができるようになっている。

参加を希望する学生は、ホームページの「ボランティア依頼」から依頼内容を確認した上で、ホームページに必要事項を記入し、申し込みを行う。申し込みが完了すると、事務局から確認のメールが送られてくる。問題がなければ依頼元の学校に参加者の連絡先が知らされ、学校側から登録学生に直接連絡が来る仕組みとなっている。多くの場合、参加希望学生は学校側と事前の打ち合わせを行い、当日の活動内容や担当クラスの確認を行っている。

(4) 活動の報告

活動の報告は、現在はホームページ上で行えるようになっている。その一例を紹介する。

①佐沼高校にて行われた県教委主催「地域学習支援センター」（7月28～30日）で、小・中学生の自習サポートを行った学生の報告書

活動内容	<p>子どもたちは、小学生・中学1，2年生、中学3年生の3クラスに分かれて各自自習をしていましたので、私たち3名は分担して1人1クラスを担当しました。私は中学3年生のクラスを担当しました。生徒は約10名で、それぞれ学校の宿題や問題集をやっていたので、教室内を周り、聞かれた質問（主に数学の問題の解き方などでした）に答えるという活動が主でした。初めは恥ずかしいのか、なかなか質問も出なかったのですが、時間が経つにつれて気軽に話しかけたりしてくれるようになりました。その他、生徒に名簿を回して人数の把握、他のボランティアの先生との打ち合わせなどを行いました。</p>
感想	<p>どのように子ども達と対応したら良いか、と不安を抱えての参加でしたが、参加してみるとあっという間の3日間でした。生徒から「先生（なぜか、「先生」と呼ばれていました）は大学でどんな学科にいるんですか？」と大学についての質問も受け、もしかしたら中学生が大学や将来のことについて考えるきっかけとなったのかもしれない、と思うと嬉しくなりました。迫町は小さな町でしたが、出会う人は本当に親切で何度も助けられました。長沼などにも足を伸ばしてみたのですが、とても綺麗な場所でした。往復には時間がかかり、大変でしたが、それ以上に良い体験をさせてもらったと思います。</p>

②泉ヶ岳少年自然の家にて行われた鶴谷小学校の野外活動の補助を行った学生の報告書（9月8～10日）

活動内容	<p>太白区役所主催のたいはくっこクラブ（太白区の小学校5・6年生約40人）の野外活動等の補助。太白区役所に集合し、バスで秋保に移動しました。ただし、あいにくの雨天のため沢遊びは行われず、野外活動として豚汁とバーベキュー作りをしました。しかし、屋根のついている炊事場が狭く、児童全員で活動するのは不可能だったので、炊事場組とバンガローに残って遊ぶ組に分かれ、わたしは主にバンガローに残った児童の相手をしていました。遊んだ内容としては、トランプやカルタなどです。食事終了後に、後片付けをして、バスで区役所に戻りました。</p>
------	--

<p>感想</p>	<p>当初伺っていた沢遊びが雨天のためできなかったのですが、それでも子どもたちが楽しんでくれたようなのでよかったですと思います。わたしにとって、大変良い経験になりました。ボランティアをするのが初めてということもあって、はじめは子どもたちにどう声をかけたらいいかわからなかったのですが、わたしが戸惑っているうちに子どもたちのほうから積極的に関わってきてくれて、すごくありがたかったです。でも、できるだけいろいろな子どもと話をするように心がけてはいたものの、結果として、バスで近くの席に座った子どもたちと特に親しくしてしまって、あまり関われなかった子どもがいたことが反省すべき点だろうと思います。</p> <p>カルタ遊びやトランプ遊びにも、予想以上に子どもたちが生き生きと楽しそうに取り組んでいたのが印象的でした。まさかこれほど真剣にかつ一生懸命にカルタをするとは思わなかったのも……。ゲーム世代だろうからあんまりカルタやトランプなんかはやりたがらないんじゃないかな、とカルタをやろうというときに危惧していたのですが、大人の目でイメージを押し付けていただけだったことに気づく結果となりました。みんなでするゲームということで、なかなか話しかけてくれない子どもも自然に話してくれましたし、なにより、子どもたち同士がより仲良くなっていたように思います。</p> <p>わたしはもっぱらバンガローにいて、ほとんど調理のほうには関われなかったのですが、調理を一生懸命にやった子どもたちが、食事のときに「これわたしが切ったんだよ」というふうにはにかみながら話しかけてくれたり、「火起こしたんだよ」と誇らしげに言ってくれたりしたのがとても嬉しかったです。普段の大学生活でこれほど多くの小学生と接したり話をしたりすることはないので、とても新鮮でした。本当にいい経験をさせてもらって、参加して良かったと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>今回このような機会を作っていただいたことに感謝いたします。区役所の方、実行委員会の方にも、大変親切にいただきました。たいはくっこクラブは9月と10月にも活動があるということで、実行委員の方、また子どもたちからもこれ以後も参加してほしいと言われました。それ自体大変嬉しいことですし、わたし自身ぜひとも参加したいのですが、実行委員の方には、残念ながら事務局を通さないと参加できない旨を伝えました。</p> <p>今回は参加したボランティアがわたし一人だったので、もっといろいろな方に参加してほしいのですが、わたし自身、何とか継続参加したいです。といっても、やはり一はずつの募集に参加を申し込むという形になるのだと思うのですが、もし募集があったら、ぜひ申し込みたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>

5. 貝森小学校での活動事例

平成17年1月29日に仙台市戦災復興記念会館にて、宮城教育大学、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会の主催で「平成16年度 教育フォーラム in 仙台」が行われた。同フォーラムは、「子どもたちに生きる力を育むために、学校教育のみならず、家庭をはじめ地域との連携をより一層深めることが求められている」との見地に立ち、「宮城県及び仙台市の行政施策や学校・地域・PTA等での実践事例」を報告し、広く広めることを目的として行われた。「学校ボランティア」は、学校におけるボランティア活動の取り組み事例の1つとして、大学生による学校ボランティアの活動の事例報告を行った。報告を行ったのは、東北大学教育学部3年の足立佳菜と田辺小百合である。尚、兩人とも水原研究室に所属する学生であり、「学校ボランティア」の登録学生である。彼女たちは、「学校ボランティアに参加して」と題した15分間の報告を行った。以下は、その報告の概要である。そこには、彼女たちが小学校でのボランティア活動の具体的な活動やそれらを通して考えたこと等が描かれている。彼女たちの発表には、学校の教員を初めとする多くの教育関係者の注目を浴び、質疑応答の時間には彼女たちの活動について幾つかの質問が出された。



事例報告「学生ボランティアに参加して」（足立佳菜・田辺小百合）

（1）貝森小学校 泉ヶ岳登山の活動

〔日時〕 2004年9月1日（水）

〔活動内容〕 貝森小学校5年生の野外活動（2泊3日）の1日目の活動である泉ヶ岳登山の引率。児童18名、引率の先生3名。学校ボランティア3名。

- 事前打ち合わせで児童の名前と1日の活動の流れを把握した。
- 児童が怪我をしないように、道を確認したり、手をひいてあげたりした。
- 足をくじいて後ろに回る児童が何人かいたが、班から離れて口数が少なくなってしまう子に付いて、話をしながら下山した。
- 班行動が乱れないように声がけをした。
- 自分から話しかけてこない子にも話しかけるようにした。

〔感想〕

- 事前打ち合わせで児童の名前を把握しておくことは大切である。
- 登山を実際にする前は、児童18名（6名×3グループ）に対して教師3名+ボランティア3名は、引率する人が多くないか、私たちのボランティアとしての役割は何なのかと疑問に思っていたが、実際登山をすると、児童18名の列は、早く登れる子となかなか登れない子で差が大きくひらき、列の後ろの方では引率者1人に児童数名で登山する形となり、先生方3人では大変だっただろうと思った。引率は多いにこしたことはなく、ボランティアの活動としても有効に活動できたと思う。



（2）貝森小学校 算数指導補助の活動

〔日時〕2004年10月下旬からボランティア3名で活動

3人で週2～3回（1回の授業に1～2人）

〔活動内容〕

小学1年生の算数の授業時間内の指導補助（一斉指導や問題演習の際、問題につまづいている児童にアドバイスをする）。この他に、焼き芋やレクリエーション、学芸会の練習な



どに参加した。

- 事前打ち合わせでは、おおまかな活動内容の説明を受けた。
- 1人の子につききりになることが多かったが、なるべく周りの子どもともコミュニケーションをとるように心がけた。
- いろいろな児童を見てまわるようにした。
- 算数指導以外にも、ノートの書き方などの明らかな間違いは指導するようにした。
- 先生の机間指導中、先生の目の届かない児童の方を見てまわるようにした。
- 指導では、先生の教え方と食い違わないように、先生の指導方法を確認しながら指導した。

〔感想〕

- 小学1年生ですでに学習の進度に大きく差が出ていることに驚いた。特に小学校低学年は、学習態度が身につけていない子もいるので、勉強内容以外にも注意をむけなければならないことが多い。それを担任の先生1人で担うのは大変なことだということを感じた。
- 1人の児童につききりになることが多く、他の児童に不快な思いをさせていないかという不安がある。
- バスの時間の関係で、授業の開始時間に間に合わないのが残念。
- 大学の授業との兼ね合いなどで、訪問日の調整が難しい。指導方法についても、担任の先生ともっと話し合える時間が持てるとよいと思う。

（3）全体を通しての感想

- 教育現場に触れ、実体験を通して教育について考える機会を得られたことは大変貴重であった。活動の最後に、児童に対して感想やアドバイスを述べる機会が何度かあったのだが、自分の伝えたいことを児童にわかりやすい言葉にするというのはなかなか難しかった。ボランティア活動を通して、学校とは異なる社会の中の自分を自覚するきっかけとなった。（足立佳菜）
- 今までには生徒という立場からでしか見ていなかった学校現場を、ボランティア活動を通じて様々な面から見る事ができたということは、教師を目指す私にとってとてもいい経験となった。学生ボランティアは親でも教師でもない。だからこそ出来ることは何なのかもう一度考えてこれからも活動に参加していきたい。（田辺小百合）
- 将来、教員を目指しているので児童が生活する姿、先生方が職務にあたる姿を拝見することで、実践に基づいた発見や問題意識を持つことができる。教員志望の学生にもっと学校ボランティアの存在を知ってほしい。また、多くの学校でボランティアを受

「大学生による学校参加ボランティア・プロジェクト」の実践報告
け入れてもらえたらと思う。(小松文恵)

(4) 貝森小学校の今野教頭先生からのご意見

- ・ (登山に関して) けが人が発生した時や、女子児童のトイレの時のために、引率者は余裕のある人数が必要です。ボランティアのおかげで安心して登山ができました。
- ・ (算数指導補助に関して) 基礎・基本の習得が叫ばれています。個別指導が低学年では有効です。学生ボランティアの協力は大変ありがたいことです。
- ・ もっと休み時間も子どもと遊び、触れ合ってもらえればよいと思っています。

5. 今後の課題

これまでのボランティア活動を振り返って、今後の課題は大きく5つあると考える。1点目は、学校からボランティアが依頼を受けるシステム運用の課題である。教育委員会からボランティア事務局が依頼を受けて、次に事務局が登録学生に参加を呼びかけ、幾人かの応募があるというシステムであるが、必ずしも学生がいつも参加してくれるわけではないことである。これは「学校ボランティア」が、少人数のボランティアグループとは異なり、ホームページとメールでの連絡という比較的弱いつながりによって成り立っているためである。依頼をする学校としても、必要な参加者数が確保できない可能性があることは、この活動を利用するにあたって、大きな障壁となっているはずである。この課題を解決するために、学生の参加率を高めることや依頼内容を厳選すること等の対応を行っているが、それでも依頼された参加人数を確保できなかった事がこれまでに数回ある。その時は、学校との交渉で参加人数を減らすことを了解してもらったり、依頼を取り下げてもらったり、或いは事務局スタッフと水原研究室の学生が参加できる場合には参加することで対応してきた。

2点目は、学校の要求とそれに応じる大学生の実状との食い違いである。学校は、教科学習の補助等の依頼については、ほぼ例外なく、同一学生の長期参加を希望してくる。それは、学校や担任の教師との意思疎通や、児童・生徒の混乱を避けるためには当然の要求であるといえる。それに対して、学生は大学での授業やその課題があるために、長期的継続的に参加することは難しい。特に大学1年生と2年生の学生は、学部に関わらず授業が朝から夕方までであるために、平日の活動に参加することはできない。したがって、登録学生の中の半数を占める1、2年生は、依頼される活動の大半に参加することができない。1月末に行われた「教育フォーラム」において、学校の教員から「ボランティア活動を単位化することで、1、2年生の学生に参加してもらうことはできないか」との提案が出たが、これは、「学校ボランティア」だけではなく全学的な検討を必要とする課題である。もう一つは、距離が遠い学校からの依頼の問題である。これは、「学校ボランティア」が仙台市及び宮城県の教育委員会と提携を結んでいる以上、仙台市のみならず宮城県全域から依頼が

来ることは十分考えられることである。しかし、学生に授業があること、そしてその多くが車を所有していないことから、その依頼を受けることが難しい状況である。

3点目は、依頼を受ける活動の基準についてである。「学校ボランティア」では、これまでNPO団体等からの依頼も受けてきた。しかし、依頼の中には祭りのサポートスタッフや地域の活動への参加等があり、このような活動を「学校ボランティア」の派遣対象とすべきか否かという課題が出てきている。このような活動に参加することは学生にとって有意義であると認めつつも、「学校ボランティア」の趣旨を超えて、無原則に登録学生を派遣することには疑問があり、かつ、ボランティア事務局としてトラブルが生じた場合の対応能力にも不安を感じる。そのような理由から現在では、派遣対象を学校での活動に限定をしているが、これでいいのかどうかは今後の活動の様子を見ていく必要がある。

4点目は、学生の活動費用についてである。これまでの活動にかかる費用は、一部を除いて、全て学生の自己負担となっている。毎週、小学校に通う学生の交通費は決して安くはない。この交通費の自己負担がまた、遠隔にある学校への参加を躊躇する一因ともなっている。ボランティア活動が参加者の一定の負担を前提にして成立している。将来的には、この費用を事務局から支給できるようにしていく必要があるのではないかと考えている。具体的には、大学や市・県、或いは協賛企業からの資金援助を「学校ボランティア」が受けることによって、参加する学生への交通費を援助できるようにしたいと思っている。

5点目は、事務局スタッフについてである。現在は3名の学生スタッフをやってもらっているが、学業等の理由から十全な活動をすることは難しくなっている。今後、この取り組みを長期に渡って継続するためには、登録学生だけではなく、事務局スタッフも充実させることが不可欠である。

以上の5点の課題を解決することで、「学校ボランティア」の活動はより安定した、魅力ある組織になるのではないかと考える。多くの学生が楽しく参加して有意義な活動を展開できるように、今後とも努力してゆきたい。

〈付記〉

本研究は東北大学大学院教育学研究科教育ネットワーク研究室、ボランティア事業経費の補助を受けた。